

高遠町 地域協議会だより

令和8年2月 発行第68号

第3回地域協議会

令和7年9月30日(火)
高遠町総合支所 会議室

■報告事項

◆コンテナトイレの設置について

塩供公衆トイレは、現地の地盤の影響により、床や便器が傾いていることから令和8年度に建て替えを予定していましたが、しかし建て替えるに要する費用が高額になることから、有利な財源を充てることができ、また災害時にも役立つコンテナトイレを設置することになりました。

コンテナトイレは、平時の時は商用電源から電気をとり、上下水道に接続して普通の水洗トイレとして使用しますが、災害時に電気や上下水道が使えない時には、太陽光発電で発電した電気です。トイレ内に備わっている汚水を浄化するユニットを使い、排水を流すことなくトイレ内の水を循環させて水洗を維持する

ていただきたい。
地域資源の発掘も大切です。例えば、高遠石工の石仏は「高遠石工研究センター」に協力いただき、灯籠祭りの時には建福寺のライトアップを行っています。地元の方もライトアップの存在を知らない方が多く、実際に目にした方は、こんな素晴らしいものがあつたかと驚く方も多くいます。また、一昨年前から霜町にある古民家を改修し、ゲストハウスも開業しています。
様々な情報を自分の目で見て足で歩いて得ていただくことも大切だと考えます。ご自分で得た情報を委員の皆さんも一緒に発信していただけます。行政と地域の活性化に結びついて良い町づくりを進めていきたいと思



ことができるトイレです。
もし、伊那市が被災して上下水道が使えない場合は、防災トイレとして利用することができます。

コンテナトイレの中の設備は、女性用トイレには洋式便器が1つ、中央部には汚水を浄化する処理ユニットや太陽光発電のパワコンと蓄電池が収まっています。一番広いスペースは、多目的トイレで、洋式便器と男性用便器がそれぞれ1つ設置され、外部には車椅子に対応するスロープが設置されています。

コンテナトイレの設置位置や外壁の色味については、現在検討しています。委員からは、トイレの入り口の向きについて質問が出され、担当課から犯罪などにも配慮し、見通しのよい道路側に入り口を設置するとの回答がありました。

◆入笠牧場の閉鎖について

入笠牧場は、これまでJA上伊那が運営してきましたが、近年は放牧頭数が50頭程度にまで減少し、経営困難を理由に令和6年度をもって閉鎖されるこ

ととなりました。

今後は、牧場用に設置された柵の撤去などの対応と牧場用地の305haのうち、JA上伊那に貸し出している市有地約140haが返還されるため、市の関係する部局で跡地利用について検討していきます。委員からは、跡地利用について具体的な方向性があるかとの質問が出されました。

担当課から映画等の撮影やキャンプ場として活用されていることから、景観を荒らさず活用する方向で検討を進めたいとの回答があり、委員からも観光振興の内容を含めながら跡地利用を検討してほしいとの要望が出されました。



地域協議会への意見や希望等がありましたら、協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

編集発行 高遠町地域協議会事務局
(伊那市高遠町総合支所総務課内)
電話 94・2551
FAX 94・3697
Eメール f-sou@inacity.jp

最後に高遠町総合支所長から提案がありました。
地域活性化について、近隣では以前はシャッター商店街であった辰野町が地域再生に成功しています。行政主導ではなく若者たちが中心となって再生に取り組んでいるもので民間の団体が主導して地域を活性化するために頑張る、そこに人が集まり大きな輪ができて町が再生していくという流れができています。行政主導では、賑わいは長続きしません。民間の柔軟な発想と行動力こそが地域活性化に繋がっていくと感じています。意欲のある方などお知り合いがいたら是非とも市にも繋げ

の機能を備えながら有効活用を努めています。しかし、新型コロナウイルスの影響により、飲食経営が困難となり、運営が厳しくなる中で、今年度から当面の間、市の直営により管理することになりました。
現在は、飲食経営は行っていませんが、貸館として利用できるように条例改正を行いました。なお、施設の運用については、地元である諸町との約束により、宿泊及び夜間の利用は行わないこととしています。今後も活用を幅を広げながら観光振興に繋げていきたいと考えています。

◆第40回（令和8年度）伊沢修二記念音楽祭について

第40回伊沢修二記念音楽祭第1部の実施会場について、地域協議会委員によるアンケートの結果が報告されました。

- A 「高遠町文化体育館で実施」 5名
- B 「長野県伊那文化会館小ホールで実施」 6名
- C 「どちらでもよい」 4名 でした。

A を選択した方からは、「高遠出身だから始まった音楽祭」「高遠でやってこそ意味がある音楽祭」「原点の高遠を忘れることなく高遠で実施できることにこだわりを持ちたい」「高遠町民としては大分譲歩した現行の形が望ましい」等の意見が寄せられました。

B を選択した方からは、「高遠の小中学生の人数も減少し、このままでは音楽祭の体裁も小規模にならざるを得ず、伊那市全域での開催規模が望ましい」「ステージ周り（音響、照



小学生が座れるように促す姿が見られました。バスの定員は、立ち乗りを含めて57人ですが、山間部を走行できる大きさで、利用者全員が座れる座席数の車両は、市内のバス会社では所有していないため、車両の変更は難しい状況です。令和4年度に運行会社に確認したところ、立ち乗りとなることも含めて運行安全性に問題ないとの回答がありましたが、今後も安全な運行の継続を求めています。

委員からは、立ち乗りがなくなるように学校・保護者・バス会社・市の関係部署で会議を行い、出た意見は毎年申し送りするよう学校に提案したいとの話がありました。

◆いつでも誰でも愉しめる「城下通り」の実現

高遠町は城下町であり、ご城下通りが観光地になるような活性化に向けた取り組みについて提案があり、担当者から回答がありました。

①「テナントの誘致」で空き店舗などの物件の借りたい、貸ししたいをマッチングしては

明等）や観覧席の設備を考えると音楽祭は長野県伊那文化会館での開催が望ましい」「開催地が高遠から離れることは寂しさを覚えるのも事実。音楽祭の名称の工夫等、何らかの意義を高遠町に留める配慮を願いたい」との意見が寄せられました。

C を選択した方からは、「伊沢修二記念音楽祭の主役、鑑賞対象者は誰なのか。何を大切にしたい音楽祭なのかを地域で考える必要がある」「音楽祭に関わる高遠町の関係者（生徒・児童・保護者・教職員）にアンケートをとってほしい」等の意見が寄せられました。

また、生涯学習課において第1部・第2部両方を長野県伊那文化会館で開催した場合の日程を検討しましたが、東京藝術大学から演奏前のリハーサルには大ホールで3時間を要するとの意見があり、同日に第1部・第2部を大ホールで開催することは難しいとの報告がありました。

委員からは、「伊沢修二記念音楽祭の名称を残してほしい」「是非、音楽祭に関係する人たちからアンケートをとってほしい」との要望が出されました。

地域協議会委員のアンケート結果と協議会で出された意見や要望を伊沢修二記念音楽祭実行委員会の資料として生涯学習課へ提出し、

どうか。

回答…伊那市公式ホームページで「空き店舗バンク」を開設してマッチングを行っていただきます。ご城下通りの空き店舗については、店舗部分のみ空いていても居住者がいる家屋も多く、店舗部分が玄関を兼ねていたり、トイレがないなど後利用へのハードルが高いのが現状ですが、活用方法を工夫しながら今後もマッチング可能な物件を斡旋していきます。

②「高遠町の歴史や文化を感じられる街づくり」ということでお城の歴史以外にも城下町で暮らしていた方たちの歴史を紹介するなど、高遠町の魅力を発信できるような取り組みはできないか。

回答…地域おこし協力隊や観光協会がスタンプラリーや謎解きイベントを開催し、観光客が町歩きをしている機会が増えているので、こうしたことをきっかけに、これまでの観光資源のPRにも力を注いでいきたいと考えています。

③「国道361号の速度抑制」は、国道なので難しいと思うが、交通量が多く、速度も速いので歩行者が危険に感じることがある。車両の速度を抑えれば、歩行者が城下町をゆつくりと散策できるのではないか。

回答…国道361号の高遠市街地付近は、法定

その後の検討経過は、第69号にてお知らせします。



委員提案について

◆スクールバスの現状（立ち乗り）と改善策について

第2回地域協議会で提案のあったスクールバスの立ち乗りの現状について次のとおり調査結果の報告がありました。

乗車する児童・生徒数は名簿によると高遠北小学校前までに最大で37人です。

調査時の車内の様子は、竹の上バス停（山室宮原）ですべての座席が埋まり、中学生が全員立っている状況で、中学校前で中学生が降車した後も6年生が立ち乗りとなる状況でした。各バス停では、上級生が乗車人数を確認し、席が不足する区間は中学生が席を立ち、

速度が時速40kmに設定されています。法定速度の変更は公安委員会の権限となり、幹線道路である国道の規格からも法定速度の変更は困難で、速度抑制のための看板や標識設置も景観への配慮が必要になります。歩行者の安全や散策しやすい環境整備について、必要に応じて伊那建設事務所に要望していきます。委員からは、今後も活性化に繋がる取り組みを続けてほしいとの要望がありました。

◆環屋の活用について



旧中村家住宅（環屋）は、改修をしたが現在はほとんど使用されていない。改修が無駄にならないように活用について考えてほしいとの提案について、担当者から回答がありました。

回答…旧中村家は所有者から市へ寄贈された建物で、国の交付金や合併特例債などを充てて改修工事を行いました。改修後の平成31年度から指定管理者制度による施設管理者を置き、チャレンジショップなど市内での新たな起業に繋げる取り組みや観光案内所として